

かしこく選んで、おいしく食べよう!



近年、食の安全を揺るがすような出来事が増える一方で、食に関する情報は溢れ、数多くの食材・食品を気軽に購入できるようになりました。その中で、私たちは健康を保つために、正しく知識で食材や食品を“えらぶ”ことが求められますが、『知識がない』と感じている方が多いようです。

健康に悪影響を与えないような食品の選択や調理方法の知識があると思うか?

「あまりないと思う」「まったくないと思う」と答えた割合は全体で41.5%となっています。(H24年度富士見町健康・食育に関するアンケート調査)



「知識がない」
41.5%

今年度、富士見町食育推進チームでは「かしこく選んで、おいしく食べよう!」をテーマに、地域活動や広報をとおして、食品の安全性に関する正しい知識を持ち、安全・安心な食べ物を選ぶ力を身につけられるための応援をしていきます。

こんにちは 地域包括支援センターです

☎ 地域包括支援センター ☎62-8200

平成29年3月18日(土)「第7回認知症になっても暮らせる町づくり集会」を開催し、『全市民で認知症の人を支える大牟田市の取り組み』について大牟田市から猿渡進平氏を迎え講演いただきました。講演の内容を一部ご紹介します。

福岡県大牟田市は人口11万人 高齢化率34.4%と高齢者の割合が富士見町より高い地域です。認知症の人が行方不明になった時は、皆で町中を探しましたが、顔も知らない人を探すのは大変でした。社協、民生委員、自治会が協力して地域で見守りできればと認知症の人へ声かけ訓練しても住民から全く声をかけてもらえませんでした。住民からは「なんでやらなきゃいけないんだ。認知症の人は施設に入ればいい」という声が多くどうにかしなければと思いました。

そこで歩いていける所、学校の空き教室にサロンを作って、認知症の人と知り合える場を作るとサロンには子供達が遊びに来て一緒に遊んだり、町の商店にお願いし出張商店街を作りサロンで買い物ができたり、自分の得意なことができたり楽しいことができる場所となりました。そして少しずつサロンへ顔を出す人が増え、住民同士の顔が見えるようになり、認知症の人が困っていたら、住民が声をかける町になっていきました。



認知症の人に限らず、住民同士の交流を深めるためには、サロン作りが大切であることがわかりました。これから『声をかけあえる安心の町』をめざしていきたいと思いました。

富士見町にも地区サロン、高齢者クラブ、オレンジカフェなど住民同士会える場があります。顔を知った仲であれば、どこかで会って不安そうにしているも「大丈夫ですか?何かお困りですか?」と声をかけられれば、相手の方も安心することができます。

うまく声をかけることができなくて、心配な方がいたら

●役場 ☎62-9133 ●社協 ☎62-8986 ●地域包括支援センター ☎62-8200

どこでも良いので連絡をお願いします。